

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和8年 6月 1日	
山口県知事 様	
提出者 住 所 山口県山陽小野田市新沖一丁目1番1号 氏 名 戸田工業株式会社 小野田事業所 事業所長 角光 敏成 電話番号 0836-89-0007	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	戸田工業株式会社 小野田事業所
事業場の所在地	山口県山陽小野田市新沖一丁目1番1号
計画期間	令和8年4月1日～令和9年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	化学工業（無機顔料製造業）
②事業の規模	売上高646,200万円
③従業員数	85名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	・生産ロス（汚泥） →自社中間処理（脱水）後、処理業者に委託してセメント原料として再資源化。一部を最終処分業者で埋立 ・潤滑油等（廃油） →処理業者に委託、油水分離し燃料として再利用 ・資材・原料の梱包材、不要資機材（廃プラスチック類） →処理業者に委託して熔融、残渣を路盤剤として資源化、焼却、RPFとして資源化、または焼却 ・運搬用不要パレット（木くず） →処理業者に委託、破碎後、ボード原料として資源化 ・破損資機材（陶磁器くず） →処理業者に委託、熔融、残渣を路盤剤として資源化 破碎後、再資源化。一部を最終処分業者で埋立 ・金属くず →処理業者に委託 最終処分場で埋立（大半の金属屑は有価買取）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図)		
事業所長（廃棄物処理統括責任者） 業務G 一般廃棄物 管理 生産技術 1 G ・ 処理責任者 ・ 技術管理者 産業廃棄物管理、 関連施設管理 ・ 関連施設維持管理 施設の新設、 修理、改善 製造G 廃棄物削減 生産ロス削減		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度（令和7年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙1の通り
	排 出 量	
	（これまでに実施した取組） ・ 汚泥は原料中不純物と生産ロス。生産設備の見直しと改善方法を検討 ・ 廃プラスチックパレットの有価引き取り（リサイクル）	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙1の通り
	排 出 量	
	（今後実施する予定の取組） ・ 製品開発、設備建設における廃棄物関係のアセスメントを行い、廃棄物発生量の抑制を計る。（生産工程ロス回収施設の稼働） ・ 廃プラ等有価引取検討等。 ・ 汚泥の乾燥による減量を検討	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 汚泥、廃油、廃プラスチック類、木くず、ガラス等 所定の産業廃棄物保管場所を設け、分別収集している。 廃プラスチック類については、パレット、純プラスチックごみ、複 合材、紙含有類等に分別し収集している。	
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 現状とおりの分別方法を継続実施する。	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項		
① 現状	【前年度（令和7年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙1の通り
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	
	（これまでに実施した取組） ・排水に含まれる成分の一部を再生し原料としての使用を検討中。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙1の通り
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	
	（今後実施する予定の取組） ・試験の継続と実用化への検討。	
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項		
① 現状	【前年度（令和7年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	
（これまでに実施した取組） ・脱水前汚泥の濃縮による、脱水効率改善 ・汚泥水分量調査		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	
（今後実施する予定の取組） ・上記改善検討、現状調査の継続と汚泥水分低減（脱水効率アップ）		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
① 現状	【前年度（令和7年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙2の通り
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	
	(これまでに実施した取組) —	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙2の通り
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	
	(今後実施する予定の取組) —	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
① 現状	【前年度（令和7年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり
	全 処 理 委 託 量	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	
	(これまでに実施した取組) ・ 廃棄物の種類ごとの委託処理業者の選定（確認）、契約書の締結（見直し）の実施。 ・ 委託処理業者の処理状況の確認。 ・ 新規委託先の検討（優良認定処理業者、最終処分方法等による）。	

②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり
	全 処 理 委 託 量	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	
	(今後実施する予定の取組)	
・ 現状取組継続 ・ 可能な限り優良認定処理業者から選定する。 ・ 委託先処理業者の定期的な現地確認の実施。		
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 1

産業廃棄物の抑制に関する事項

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃プラスチック類	木くず	金属くず	陶磁器くず	がれき類
前年度（R7年度）実績 排出量	32,230t	1t	—	66t	100t	0.3t	0.5t	—
計画【目標】 排出量	35,000t	2t	1t	70t	100t	1t	2t	1t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃プラスチック類	木くず	金属くず	陶磁器くず	がれき類
前年度（R7年度）実績 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	—	—	—	—	—	—	—	—
計画【目標】 自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	—	—	—	—	—	—	—	—

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃プラスチック類	木くず	金属くず	陶磁器くず	がれき類
前年度（R7年度）実績 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	—	—	—	—	—	—	—	—
前年度（R7年度）実績 自ら中間処理により 減量した産業廃棄物の 量	28,456t	—	—	—	—	—	—	—
計画【目標】 自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	—	—	—	—	—	—	—	—
計画【目標】 自ら中間処理により 減量する産業廃棄物の 量	30,000t	—	—	—	—	—	—	—

別紙 2

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃プラスチック類	木くず	金属くず	陶磁器くず	がれき類
前年度（R7年度）実績 自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	—	—	—	—	—	—	—	—
計画【目標】 自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	—	—	—	—	—	—	—	—

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃プラスチック類	木くず	金属くず	陶磁器くず	がれき類
前年度（R7年度）実績 全処理委託量	3,775t	1t	0t	66t	100t	0.3t	0.5t	0t
優良認定処理業者への 処理委託量	2,658t	1t	0t	11t	100t	0.3t	0.5t	0t
再生利用理業者への 処理委託量	1,116t	1t	0t	55t	100t	0t	0t	0t
認定熱回収業者への 処理委託量	—	—	—	—	—	—	—	—
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者 への処理委託量	—	—	—	—	—	—	—	—
計画【目標】 全処理委託量	4,000t	2t	1t	70t	100t	1t	1t	0t
優良認定処理業者への 処理委託量	2,500t	2t	1t	20t	100t	1t	1t	0t
再生利用理業者への 処理委託量	1,500t	2t	1t	50t	100t	0t	0t	0t
認定熱回収業者への 処理委託量	—	—	—	—	—	—	—	—
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者 への処理委託量	—	—	—	—	—	—	—	—

多量排出事業者の産業廃棄物処理計画書(補足)(令和8年度計画)

多量排出事業者 名 称	戸田工業株式会社 小野田事業所	所在地(市町名)	山陽小野田市	事業の種類	化学工業
-------------	-----------------	----------	--------	-------	------

(単位：トン)																					
区分	種 類	排出抑制に関する事項		自ら行う再生利用に関する事項		自ら行う中間処理に関する事項				自ら行う埋立処分等に関する事項		処理委託に関する事項									
		排出量		自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		全処理委託量		優良認定処理業者への処理委託量		再生利用業者への処理委託量		認定熱回収業者への処理委託量		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	
		現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画
産業廃棄物	燃え殻																				
	汚泥	32,230	35,000					28,456	30,000			3,775	4,000	2,658	2,500	1,116	1,500				
	廃油	1	2									1	2	1	2	1	2				
	廃酸	0	1									0	1	0	1	0	1				
	廃アルカリ																				
	廃プラスチック類	66	70									66	70	11	20	55	50				
	紙くず																				
	木くず	100	100									100	100	100	100	100	100				
	繊維くず																				
	動植物性残さ																				
	動物系固形不燃物																				
	ゴムくず																				
	金属くず	0.3	1									0.3	1	0.3	1						
	ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず	0.5	2									0.5	1	0.5	1						
	鋸さい																				
	がれき類	0	1																		
	動物のふん尿																				
	動物の死体																				
	ばいじん																				
	13号廃棄物																				
計 (A)		32,397	35,177	0	0	0	0	28,456	30,000	0	0	3,942	4,175	2,771	2,625	1,272	1,653	0	0	0	0